



## 「特別の教科道徳」を通して学ぶこと

副校長 小林 謙二

「小学生の頃好きだった勉強は？」と、子供たちに聞かれたら、今でも自信をもってこう答えます。

「第1位体育、第2位道徳、第3位給食」…「第3位はなしだぞ」と言われたあとに、きまって「へえー2位が道徳??」と、なんとも期待はずれだったような不思議そうな反応をされます。とはいえ、当時はけっこう道徳の時間は人気があったのです。なぜって?その時間はゆっくりテレビを見ることができたから。「さんさんさん、さわやか3組〜♪」を口ずさみながら、学校の内外で起こる様々なドラマを、「みんな夢中になって」と言えばだいぶ大げさですが、なんとなくこそばゆい思いをしながら、時に「おい、それはないだろ」と、登場人物にツッコミながら、同年代の子供に自分たちの姿を重ね、展開を見守っていたことを覚えています。とはいえ、数名の同世代の方の共感を得られたとしても、もちろん現在では「ただテレビ番組を視聴して終わり」という授業はなされていないはずです。

数年前、加速する深刻ないじめ問題を発端に、対策の一つとして道徳教育を教科として位置付けることが教育再生実行会議の提言に盛り込まれました。道徳科を学ぶ目的は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、様々な道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることにあります。そして、その学びの過程では、「対話の時間」を大切にしています。対話とは主に、「教材との対話」「先生との対話」「子供同士の対話」そして、「自己内対話」です。対話を通して子供たちは心を揺さぶり、これまでの価値観を広げ、自分の生き方を深く考えていくことになります。

ウソについてはいけないことは知っています。でも、とっさに正直な言葉が出てこないことがある。努力の大切さは分かっています。でも世の中には、突如現れたウィルスに、大きなチャンスを奪われることもある。これまでにいろいろな葛藤があって、今の自分がいる。となりの友達もいろいろな経験をして今ここにいる。教師も含めてそれぞれがそれぞれの価値観にふれ、心を動かしながら、上述の目標に近付けたらと思っています。

下記に掲載させていただいたのは、私が以前担任をしていた頃、目の前にいる子供たちの顔を見ながら作成した資料です。読みにくくて申し訳ありませんが、よろしければいつかの機会にご家庭でも、「対話」してみてください。

### 0. 5秒のかべ

作 こばやし けんじ

「いつてきまへず。」  
昨日貰ってもらったばかりの新しい虫かごを片手に、弟がくるくと家の中を走り回る。  
「あなた本当にいいの?」  
朝から何回も目をつぶって、くもった顔で、お母さんは同じ質問を繰り返す。  
「いーの、いーの。私にだってやることたくさんあるんだから。」  
と、笑顔で答えながら、(ちゃんと笑っているかなあ…) って、少し心配になって窓ガラスを映す自分の顔を確かめる。  
「うん、入った。一週間、去年の今頃は、弟と同じようにはいしゃいでいたけど、でも今年、小学校生活最後の夏休みだけ…入学してからずっと続いていた夏の大会、小長野のおいしいちゃん家に行く」のをあきらめることにした。なぜって?いーの、いーの。私にはやることたくさんあるんだから。たくさん…。  
「ユミちゃんすごいねえ。ずっと学校のプールに来てるんだ。」  
更衣室で着替えていると、久しぶりに会った親友のチオちゃんが驚きの声をあげた。  
「うん、まあね。私、けつこうひまだし。」  
「へえー私なんか毎日出かけてほぼ1週間も休んでる。昨日はお台場行ったし、明日もいって海に行くし。」  
「かへん、それはいいね…」  
奈緒ちゃんはずれそうに話しかけていたから、ちゃんと答えなきゃって思うのだけれど、うまく言葉が続かない。私だって遊びに行こうと思えば…、あれ?これってうらやましいの?ちがうちがう。いーの、いーの。私はもう決めたんだから。今年の夏は何としてもう3級に合格する。クローラ50mを〇〇秒で泳ぎきってみせる。別にだれと約束したわけでもないけれど、小学校生活最後の夏に、自分で「がんばった!」って言うようにするんだから。

検定前の最終日、いつものようにビート板を取りに行くと、先生が声をかけてくれた。  
「おい。ユミ。おまえ本当に泳ぎがきれいになったなあ。」  
「え?あ、まあ、ありがたうございます。」  
「夏休みにも一日も欠かさず毎日練習してきたもんね。動きにむだがなくなったから、きつくとすくタイムが伸びていると思うぞ。明日の検定が楽しみなな。」  
ペコリと頭を下げて、私はその場を立ち去った。  
ふふふ。そりゃあそうさ。プールサイドを歩きながら頭の中で先生の言葉を繰り返す。私は今日までできる限りのことをやってきた。ビート板を使ってバタ足の基礎から復習したし、不得意だった息つきも完泳にできるようになった。本だって読んでたし、オリンピック選手の水泳も研究した。何よりも友達との遊びを断ってまで、毎日プールに通ったんだ。  
その夜、胸のドキドキをおさえながら、いつもよりも早く布団に入った。

「よ〜い、ピー」  
笛の合図でプールの壁をける。  
いよいよ検定が始まった。  
私はあごをひいて、指先までまっすぐに伸ばし、バタ足を始める。何度も繰り返してきた動作だから、体がしっかりと覚えている。よし、今日は調子がよさそう。手で水をしっかりとらえ、後ろにかきだす。息つきは顔をあげないようにして…できるだけ水の中で息をはいて…これまで習ったこともしっかりとできている。ターンもバッチリだ。  
よし、あと25m。ここからスピードが落ちないようにしないといけない。そのためにキックの力をつけてきた。だから大丈夫。がんばれ、がんばれ、がんばれ私。あの赤い線をこえたらもうすぐだ。  
5m, 4, 3, 2, …

「何秒ですか。」  
水から顔をあげた瞬間にさけぶと、先生は私に見るように体をかがめて、ストップウォッチの数字を指さした。

「え? ……」

頭の中が真っ白になる。

「おしかつたなあ。いい泳ぎだったんだけどなあ。残り15mからがちよっと…」  
先生の声はもう耳に入っていない。

…うそでしょ、あと0.5秒足りてないじゃん。そ、そんなことって…私のこれまでの努力ってなんだったの。そんなあ、全然意味ないじゃん。小学校のプールはこれで終わりなのに。これが最後のつもりでがんばってきたのに…。

シャワーをあびた後も、(あーあ、こんなことならおじいちゃん家に行っておけばよかった…)と、どこからかもう一人の自分がつぶやく。頭をかきむしるように何度もふきながら、もうわいているはずなのに、私はそれからもしばらくバスタオルから顔をあげられなかった。



# 2月の予定

1日	火	【全4時間B時程】安全指導	15日	火	NIEタイム あいさつプロジェクト⑤ FC東京出前授業（5年・5組）
2日	水	【全4時間B時程】	16日	水	いのちの授業（4年）
3日	木		17日	木	特別支援学級卒業生を送る会
4日	金	【B時程】	18日	金	児童集会 FC東京出前授業（4年）
5日	土		19日	土	土曜授業 法教育（6年）
6日	日		20日	日	
7日	月	全校朝会 あいさつプロジェクト① メグミルク食育授業（1年）	21日	月	全校朝会
8日	火	NIEタイム 避難訓練 あいさつプロジェクト② いのちの授業（2年） 理科実験支援事業（6年）	22日	火	NIEタイム 日光高原学園1日目（6年）
9日	水	あいさつプロジェクト③	23日	水	天皇誕生日 日光高原学園2日目（6年）
10日	木	あいさつプロジェクト④ 理科実験支援事業（6年）	24日	木	保護者会（4・5年）6年生振替休日 そろばん教室（3年）
11日	金	建国記念の日	25日	金	音楽朝会 保護者会（123年5組）そろばん教室（3年）
12日	土		26日	土	
13日	日	日本漢字能力検定	27日	日	
14日	月	全校朝会 クラブ活動（最終2学期振り返り） いのちの授業（6年）	28日	月	全校朝会 委員会活動（最終2学期振り返り）

校庭開放：2月6日(日)、11日(金)、13日(日)、20日(日)  
23日(水)、27日(日)

カウンセラー来校日：中田先生：1日(火)、8日(火)、15日(火)、21日(月)  
篠村先生：3日(木)、10日(木)[午前]、17日(木)、24日(木)

## 席書会、書き初め展

国語部 中島 由香子

書き初めは、年が明けて初めて毛筆で書や絵をかく行事です。昔から吉書（きっしょ）、試筆（しひつ）、初硯（はつすずり）などとも呼ばれ、親しまれてきました。一年の邪気を除くとされる若水（元旦に初めて汲む水）で墨をすり、恵方に向かって書く習慣があります。初めて書いたものを燃やし、その炎が高く上がると字が上達するとも言われています。

校内席書会が、1月12、13、14日に行われました。3～6年生の子供たちは体育館で毛筆、1、2年生の子供たちは教室で硬筆の席書会でした。

今年度は、書き初め展を1月22日（土）～28日（金）に行いました。

お子さんが作品を持ち帰った際は、一年毎の成長に目を向けて、一人一人の頑張りを是非、褒めてあげてください。

## 生活科「かぞくにこにこ大きくせん」の活動を通して

第1学年担任

1年生は昨年末から、生活科で「かぞくにこにこ大きくせん」に取り組みました。家族の一日の生活を探る活動から始め、家庭生活おける役割についてつかめました。それを基に「かぞくにこにこ大きくせん いっしょにちょうせん」「かぞくにこにこ大きくせん じぶんでちょうせん」「かぞくにこにこ大きくせん」を計画し、家族を喜ばせる作戦を考え、試したり、工夫したりしながら継続的に活動を行いました。作戦を実行してみて、子供たちからは「家族のありがとうの言葉が嬉しかった。」「またやってみたい。」といった感想が生まれました。試行錯誤しながら実行する活動を通して、家族での生活はお互いに支え合っていることや、家族の喜びには自分が関わっていることに気付くことができました。

学習を進めるにあたって、ご家庭でのたくさんの協力をいただきありがとうございました。引き続き、家庭と学校が一体となって子供たち一人一人の成長を支えていきたいと思ひます。